

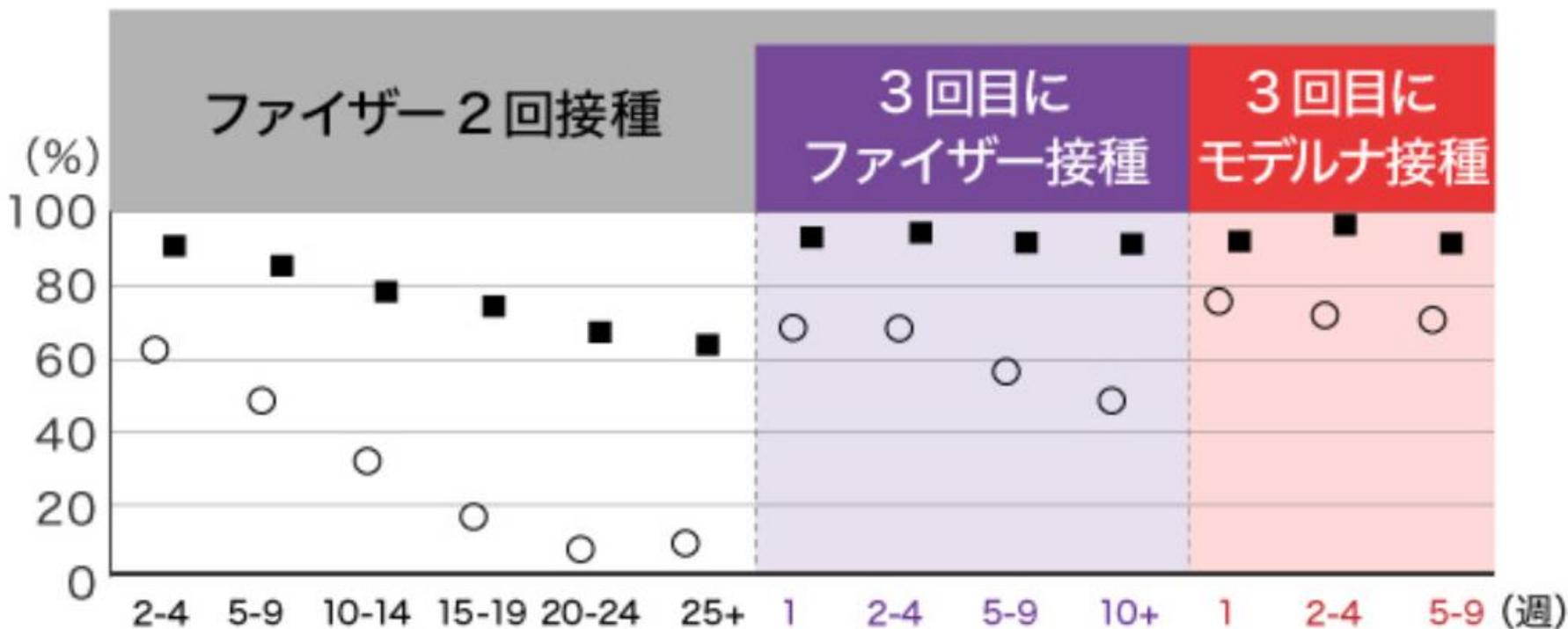
オミクロン株に対する有効性

イギリス保健局の資料から作成したNHKの報道によると、3回目の新型コロナワクチンは、モデルナとファイザーではモデルナの方が有効性が高くています。

ワクチンの発症予防効果

NHK

ワクチンの有効性



○: オミクロン株

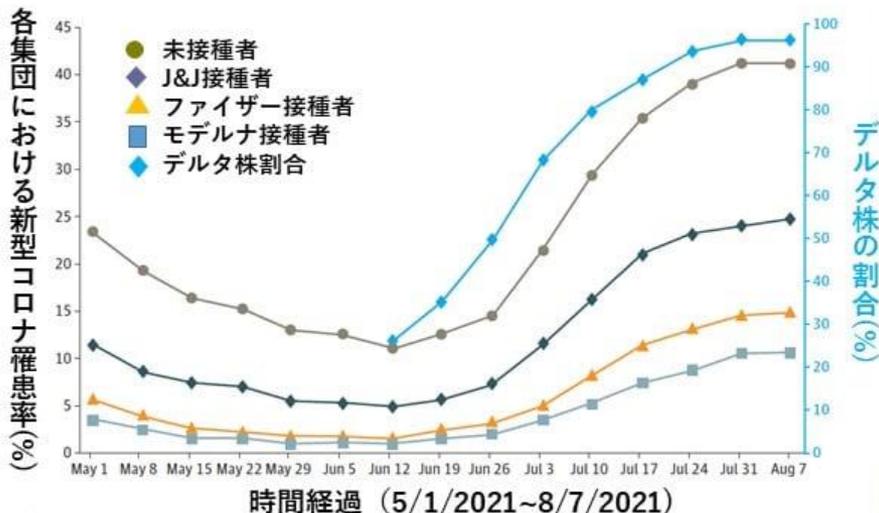
■: デルタ株

ワクチン接種後経過期間

イギリス保健当局の資料より作成

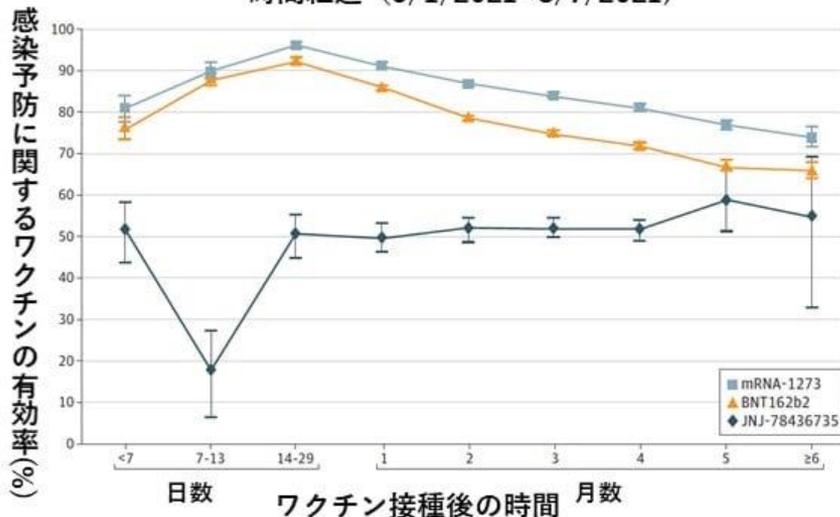
新型コロナウイルスに対するワクチンの有効性

モデルナとファイザーではモデルナの方が有効性が高い可能性があります。また、違う種類のワクチンを交叉接種した方がよりブースター効果が高いとされています。高齢者やリスクが高い人にはモデルナが推薦されます。
 (スライド:大阪大学免疫学 宮坂昌之名誉教授による)



アメリカで約123万人 (59.2%女性、平均年齢37才、52.2%がワクチン接種済) を対象として調査した。その結果、ワクチンを接種していない人は、

- (1)モデルナ接種者に比べて約4.1倍感染しやすい、
- (2)ファイザー接種者に比べて約2.9倍感染しやすい、
- (3)J&J接種者に比べて約1.6倍感染しやすい、
- (4)以上の差は、デルタ株の流行とともにはっきり見えるようになった。



ワクチンの感染予防に関する有効率は、

- (1)モデルナとファイザーは、時間とともに低下しつつあるが、接種から6カ月後も65~75%はある。アメリカではデルタ株感染が9割以上なので、両ワクチンともにデルタ株に対して一定の有効性を維持している。
- (2)J&Jは、接種後1~2週間で有効率が一時的に大きく低下し、その後は~50%を維持する。

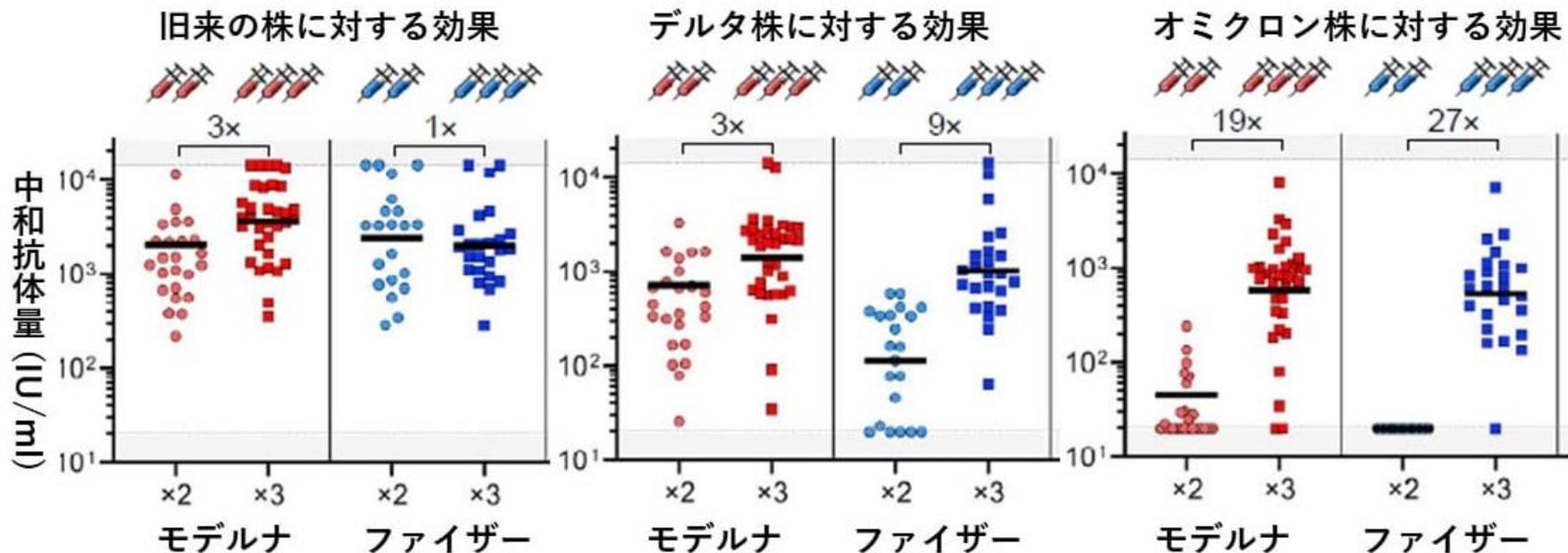
⇒ 変異株流行でもmRNAワクチン接種は感染予防に有効であり、その効果は6カ月は持続する

新型コロナウイルスワクチン接種2回目後 3回目後の後の抗体価

モデルナとファイザーではモデルナの方がやや個体価が高くなります。
ファイザーは2回接種後の抗体価が低下しやすいですが、3回目を接種するとモデルナ並みに上昇します。

(スライド:大阪大学免疫学 宮坂昌之名誉教授による)

モデルナ製あるいはファイザー製ワクチンを2回接種あるいは3回接種した後に、
得られた被接種者血清中の旧来株、デルタ株、オミクロン株に対する中和抗体価を調べた



mRNAワクチンの追加接種によりデルタ株、オミクロン株に対する中和抗体価が上昇する。
= 追加接種により、オミクロン株に対する感染防御が可能になる。